

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和七年六月度 入賞句一覧

投句数 五百四十七句

度会 さち子 選

特選



母の日や母の遺せり農道具

不破郡垂井町 児玉 昌巳

今年も母の日がやってきた。が、贈り物をしようにも母はもういない。納屋には母が使っていた、よく手入れされた鍬や鎌が。泥のついた長靴、いつもかぶっていた母の好きな帽子などがある。もくもくと田畑にいそしんでいた姿、採れたての野菜を作業着のまま届けてくれた母。そんな母に自分は優しくかつただろうか。「母の日」「母が」と母を重ねる音が、母への想いを一層ひき出す。

蜜豆やキュビズム展の帰り道

東京都足立区 山崎 董久

キュビズムとは、二十世紀初め、ピカソやブラックなどの画家が創始した芸術運動で、それまでの写実に対して、さまざまな視点からモチーフを単純化し、立体的、幾何学的に再構築するもの。キュビズム展は、昨年三月、京都市京セラ美術館でも開催されている。そんな帰り道の蜜豆。なかには色あざやかな立方体の寒天も。それは観てきたばかりの作品の欠片のように。キュビズムと蜜豆の取り合わせがみごと。

焼香のあと郭公のこゑ高し

長野県下伊那郡 長沼 まさし

故人の写真をあおぎながら焼香をし、席に戻ったその時、郭公の声が。郭公の声は、あたかも故人の霊、声のようだ。郭公の声は、どちらかといえども明るい。送った人は大往生だったのだらう。郭公の声は、葬儀の悲しさより、故人を偲びながらも見送った人たちの明るさをも感じさせる。山々に木魂する郭公の声は、残された人たちへの、死者の山河への別れの挨拶でもある。

秀逸

昨日より崩れし牡丹に風の音

大垣市 香田 末代

眠る児は重し泰山木の花

大垣市 小林 研

星揺らす起こし太鼓の大太鼓

大垣市 浅野 翔泉

大股の僧のかるやか夏衣

安八郡輪之内町 野村 照子

麦秋や山を背にするハングライダ

大垣市 宇佐美 昭子

風吹けば吹かれしままに水すまし

大垣市 早笈 千恵子

苺ミルク妹の顔に戻るなり

神奈川県横浜市 沼野大統領

バラ展の写真はモノクロ風光る

愛知県豊明市 希凜咲女

洗はれてふはふはの犬夏来る

京都府京都市 石田 吉之助

栗の花血族時に疎ましき

埼玉県さいたま市澤田 紫

入選

風運ぶ残り香妣の白餅

大垣市

立川 昌子

明るさの残る夕餉の筍飯

不破郡垂井町

大羽 志風

山車回る地下足袋跳ねて男衆

大垣市

米山 春江

ふる里は今無人駅麦の秋

大垣市

酒井 和美

窓伝ふ梅雨のひと日の静寂かな

大垣市

岡田 あや子

補助輪を外す約束梅雨晴れ間

大垣市

永江 美佳

ドリツプの仕舞のぬるさ走り梅雨

大垣市

臼井 秀子

浮き沈む水母ひとり居とはこんな

埼玉県川口市

吉永 寿美子

釣りあげし小鮎耀く手の中に

大垣市

堀江 敏子

父の日と呟き数独夢中なり

大垣市

水谷 義雄

まだ濡れし泥新しや燕の巢

大垣市

岡田 幸子

谷風に燥ぐ百匹鯉のぼり

愛知県一宮市

恒川 知子

紫陽花の径は静かに混みにけり

群馬県館林市

坂口 いちお

不動産入道雲を一喝す

本巣郡北方町

谷 弘行

母の日の母に捧ぐる駄句いくつ

岐阜市

堀江 美州

選者吟

大楠の守りし首塚梅雨の蝶

さち子

一般の部

